

「第6回 家族で道德」《生徒意見》

令和2年12月9日(水)

資料:「クリームパン」

出典:文科省 中学校:真理や学ぶことを愛する心を育てる

No. 1

1「親父みたいな生き方も悪くない。」とはどういうことだろう。

2 親父はどんな思いからおじいさんに届けるパンを、新一に作らせたのだろう。

1 バンドとかなら、皆のオス2 歌ったりと拍手や感声もらえるけど、パン職人みたくはお店のうら2 思いを込めて作らばパンを作ると言うバンドとはまたちがう仕事とあるのも悪くないと新一は思ったんじゃないかなと鬼った。

2. パンが美味しいからよし、味がいいからよしとか味の問題じゃなく、新一が1つのパンを思いを込めて作り上げるパンを作らせたかったんだと鬼った。

また、親父は自分の店をついてほしいため、パン作りはたまたまパンを作るんじゃないかと1つ1つのパンを意味のあるパンにあるために吐いて教えたんだと鬼った。

「親父みたいな生き方も悪くない。」とはどういうことだろう。

親父はどんな思いからおじいさんに届けるパンを、新一に作らせたのだろう。

「親父みたいな生き方も悪くない。」と新一が鬼、たのは、最初、父はただ単にパンを焼いているだけだと考えていたけれど、途中から父が試行錯誤して作ったパンが人に笑顔を与えていると知ったからだと思います。地道に努力して人のために働くのもいいなとも鬼、たはずです。父がおじいさんに届けるパンを新一に作らせたのは、自分自身がお客さんのためにパンを一生懸命作、たのと同じように、新一にも誰かのために想、てパンを作、てほしいと思、たからだと思います。それと同時に、パンに興味を持、てくれた新一にパン作りは大変だねとやりがいがあるということを言葉ではなく実感してほしいからだと思います。最後、新一が「いつの日か自分なりのパンを作れるようになる」といって誓、たのとあり、父のようになりた、いと思、たのだからだと思います。父と一緒にパンを作る中で、父がパンに注、ぐ情熱を見たからです。私も父親のように人のためにやりがいや情熱を持、て働ける誇りを持、て生まれる人になりたいです。

資料:「クリームパン」

出典: 文科省 中学校: 真理や学ぶことを愛する心を育てる

No. 2

「親父みたいな生き方も悪くない。」とはどういうことだろう。

親父はどんな思いからおじいさんに届けるパンを、新一に作らせたのだろう。

新一は今まで「作ろう」とする気持ちがあったけど、「作りたい」誰かに自分のパンを届けたい、誰かのために作りたい、という気持ちにならなかったのだと思います。それを親父の姿を見て気付いてこののだと思います。「誰かのために何かをする」という点ではパンも新一の入っているバンドも同じだし、その自分の作ったものを与えて、その与えた人が笑顔になれる、受け取った人が幸せな気持ちになる、その幸せのために自分は働く。新一はパン屋を継いでも継がなかったとしても、「誰かのために働く」という意味を知ったのだと思います。その働きは、どんな形であつたとしても思いがあればお客さんには届く。それが見えるものでも、見えないものでも同じだだと思います。

「親父みたいな生き方も悪くない。」とはどういうことだろう。

親父はどんな思いからおじいさんに届けるパンを、新一に作らせたのだろう。

「親父みたいな生き方も悪くない。」というのは、親父のパン作りのように自立ない仕事でも、それに自分の人生をかけてゆくという意味なのだと思います。「おれ」は自立したい、有名になりたいという思いを持っていたから「親父」のような生き方がよく分からなかったのかな、と思いました。でも家で自立している人々も、裏のほうで自立せずひっそりとやっている人も、どちらもそのがんばりを評価してくれる人が必ずいるのだと思います。それは学校でも同じで、委員長のようにクラスをよくしようと色んなところで頑張っている人もいれば、あまり自立しないけれども素の人たちを影で支えている人がいます。そして必ずその人たちを自立自立しない関係なくそのがんばりを評価してくれるクラスのメンバーもいます。それで学校とか社会はなりたっているのかなと思いました。自分も色んな人を評価したり、してもらおうという人間になれたらいいなと思います。